

# ジャンボタニシの防除対策について ～複数の防除方法を組み合わせよう～

平成30年産米では、ジャンボタニシの発生による、食害(欠株)が多発しました。  
平成31年産米の生産に向け複数の防除対策を組み合わせ、被害抑制に努めましょう。

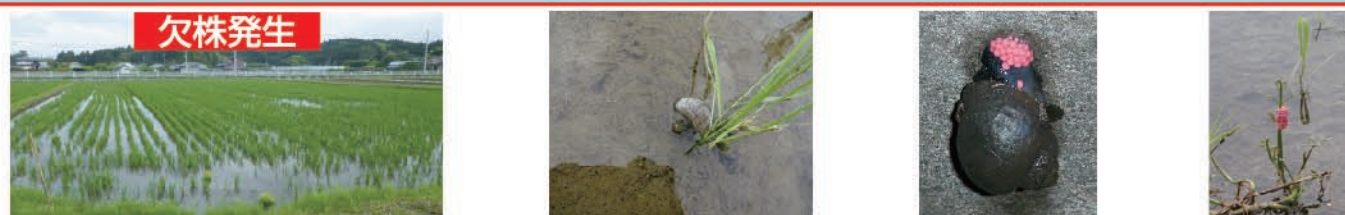
宮崎県  
宮崎県産米改良協会



## 防除ポイント①

### ○移植後の水管理による耕種的防除

- ・浅水管理の実施(移植後2~3週間の間、水深を1cm程度に保つ)
- ・ほ場が凸凹だと水深が深いところが食害に遭いやすい(ほ場の均平が重要)
- ※早期水稲では、移植時の気温が低いことから、活着促進のため深水とする



## 防除ポイント②

### ○農薬散布による化学的防除

- ・スクミノン等の散布による殺貝(摂食により死亡)や行動抑制(マヒ)が発生
- ・稚貝は剤付近に接近すると行動抑制(マヒ)が発生
- ・被害が大きいほ場は、移植直後と移植7~10日後に再散布



※農業ラベルに記載された使用方法、使用上の注意事項を守って使用する

## 防除ポイント③

### ○様々な方法による物理的防除

- ・水路からの侵入を防止(水口及び水尻に1cmメッシュの金網や網袋を設置)
- ・移植前後の貝の除去
- ・卵塊の除去(ピンク色の卵塊を潰す)

## 防除ポイント④

### ○冬期の耕耘による耕種的防除

- ・裏作を作付けしない場合は、1~2月の厳冬期に耕耘し、寒波にさらす
- ・ロータリー回転を高速、トラクターは低速で走行し、破碎効果を高める
- ・特に水口、畦畔付近は密度が多いので丁寧に実施

## 防除ポイント⑤

### ○石灰窒素による化学的防除(収穫後9~11月、移植前4月~5月)

- ・水温15℃以上、水深3~4cmの湛水状態を3~4日保つ(ジャンボタニシを活動させる)
- ・石灰窒素20~30 kg/10aをムラなく散布(手袋、マスク等を着用)
- ・散布後、1週間は湛水状態を保ち、排水をせずに自然に減水(魚毒性がある)
- ※移植前に施用する場合は、基肥量の調整が必要

詳細については、最寄りの農業改良普及センターやJAにお問い合わせ下さい!